森の四季 Vol.122

只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

アマゴイルリトンボ （学名：*Platycnemis echigoana*）

［トンボ目モノサシトンボ科］

▲成熟したオスの複眼はあざやかな瑠璃色になる

▲オス（上）とメス（下）は交尾後、連結したまま水面直下の植物に産卵する

梅雨入りとともに蒸し暑くなる6月、水辺は羽化を待ちわびていたトンボ達でにぎわいます。その中で、ひときわ目を引くのがアマゴイルリトンボです。羽化直後はまだ色がついておらず白っぽいのですが、しばらくして成熟すると、オスは全身瑠璃(るり)色に染まり非常に美しくなります。メスは黄緑色にかわり、眼はうっすら青みを帯びます。このアマゴイという独特の名は、新潟県三条市にある“雨生ヶ池（まごいがいけ）”で本種が記録されたことに由来します。

アマゴイルリトンボは日本固有種で、青森・山形・福島・新潟・長野各県の限られた場所にのみ分布する珍しいトンボです。主な生息環境は、山地の水草が生えるきれいな池ですが、林内の沢や湿地、水田沿いの水路で発生することもあります。只見町では、平地や山地の池、山間部の休耕田などに生息します。成虫は5月下旬から出現しはじめ、6月に最も数が多くなります。場所によっては夏の終わり頃まで見られます。

池に生息するトンボの多くは、水上や水際からあまり離れることはありません。しかし、アマゴイルリトンボは池とその周囲の林を頻繁に移動します。特にオスは水辺近くの林内で、木漏れ日の差し込む場所などを選び、そこで縄張りをもちます。そして、気温の上がる正午前後になると、交尾を済ませたオスとメスが水辺を訪れ、連結したまま産卵します。こうした森と水辺という二つの環境の組み合わせが、アマゴイルリトンボの生息を支えています。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」および「ふるさと館田子倉」は、６月１日（月）より再開館しています。
臨時休館のため中断していた企画展「只見の春植物とその生活史」の開催期間を下記の通り延長します。まだ展示をご覧になっていない方は、ぜひお越しください。

企画展「只見の春植物とその生活史」
会期：開催中～2020年6月29日（月）
場所：ただみ・ブナと川のミュージアム　2階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています
VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎0241(82)5220